

実体経済の動向

◇ 6月は生産、出荷とも大幅増加

(生産——高水準の増勢を持続)

鉱工業生産(季節調整済み)は5月に前月比-0.3%と微減のあと、6月(速報)は+3.3%の大幅な増加を示した。3ヵ月移動平均でみても、3月+1.9%、4月+1.0%、5月+1.8%となり、生産は月々のふれを伴いながらも高水準の増勢を維持している。

生産動向を特殊分類別にみると、6月は各財ともかなりの増加となった。まず一般資本財は高水準の受注残を背景として、金属加工機械(圧延機械、鉄鋼用ロール)、発送配電機器、運搬機械(クレーン、コンベア)等を中心に大幅増加(+6.3%)を示した。耐久消費財も前月に続いてかなりの増加(+3.5%)となったが、これはモデル・チェンジの完了に伴い乗用車の増産が軌道に乗ったことが主因であり、天候不順の影響で在庫増加の目だつ夏物家電製品(エアコンディショナー、扇風機)は減産を示した。生産財の増加(+2.7%)は、前

月減少した鉄鋼の増加や石油化学関係新・増設設備の稼働本格化によるところが大きい。そのほか、前月減少した建設資材(鉄骨、コンクリート管・パイル)および非耐久消費財(紙、プラスチック製品)もかなりの増加となった。

(出荷——4、5月統落のあと、6月は著増)

6月の鉱工業出荷(速報)は、前月比+4.6%と月間上昇率としては40年以降の最高を示した。もっともこれには前2ヵ月統落(4月-2.5%、5月-0.6%)後の反動や、不規則変動の大きい船舶の著増(船舶を除くと+2.9%)なども響いており、3ヵ月移動平均値の前月比では3月+0.7%、4月+0.2%、5月+0.5%と、ならしてみれば出荷の伸びはそれほど高いわけではない(6月の指数水準は3月に比べ+1.4%と小幅の増加)。

特殊分類別にみると、船舶の引渡し集中から資本財輸送機械が著増したのをはじめ、非耐久消費財(メリヤス製品、たばこの減少が主体)を除く各財とも増加を示した。このうち一般資本財(+5.8%)は生産同様大型機種完工集中によるもので、耐久消費財(+7.8%)はモデル・チェンジに伴う新車需要の持直し、カラーテレビの好調持続、新型冷蔵庫の売れ行き好伸などが主因となっている。も

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

		44年				45年		
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4月	5月	6月
鉱 指 数		182.5	190.1	199.2	205.5	213.4	212.8	—
工 前期(月)比		6.3	4.2	4.8	3.2	2.4	0.3	3.3
業 前年同期(月)比		16.8	17.1	17.7	19.0	18.0	17.0	—
投資財		5.4	4.8	7.2	7.9	2.7	0.5	3.9
資本財		5.2	5.4	7.2	10.1	0.3	1.7	4.6
同(輸送機械を除く)		7.5	2.7	10.2	12.2	0.6	1.1	6.3
輸送機械		0.3	9.8	1.8	5.7	1.4	3.3	—
建設資材		5.9	3.8	6.8	2.4	7.3	4.6	2.5
消費財		8.5	2.7	3.2	2.1	3.2	0.7	3.5
耐久消費財		7.8	5.0	6.6	4.9	0.3	3.3	3.5
非耐久消費財		6.2	0.9	1.5	1.6	4.5	1.5	2.7
生産財		5.4	4.1	4.8	3.1	1.7	0.9	2.7

(注) 1. 通産省調べ、45年6月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

		44年				45年		
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4月	5月	6月
鉱 指 数		178.5	184.7	192.5	202.7	203.3	202.1	—
工 前期(月)比		5.9	3.5	4.2	5.3	-2.5	-0.6	4.6
業 前年同期(月)比		16.2	17.6	18.0	20.2	15.1	14.0	—
投資財		7.9	1.0	5.4	10.3	-4.8	-0.7	6.9
資本財		8.5	0.3	5.5	14.0	-9.4	0.9	9.1
同(輸送機械を除く)		7.3	4.8	5.9	10.8	-2.2	0.4	5.8
輸送機械		9.0	8.2	5.1	21.0	-22.1	1.9	—
建設資材		6.9	3.9	5.4	0.9	8.4	3.6	1.6
消費財		4.8	3.6	3.5	1.3	-1.6	0.9	4.6
耐久消費財		3.1	9.6	4.8	-2.7	-3.5	2.2	7.8
非耐久消費財		5.1	1.4	3.0	3.2	1.0	-0.4	-0.6
生産財		6.0	5.2	3.7	4.2	0.4	-2.1	2.7

(注) 1. 通産省調べ、45年6月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

っとも耐久消費財の出荷は、1～3月期に落ち込んだ(前期比-2.7%)関係から、水準としてはようやく昨年末の水準にもどった程度である。生産財も前2か月の伸び悩みを考慮すれば比較的小幅の増加(+2.7%)にとどまった。鉄鋼が前2か月減少の反動もあって増加したほか、石油化学、一般機械部品(汎用内燃機関、ドリル)等がかなり増加した反面、化学肥料、板紙(弱電向けなどの需要不振)等は引き続き伸び悩んでいる。

(製品在庫——引き続き増加)

6月の製品在庫は前月比+1.1%と引き続き増加した。もっとも、前2か月大幅に増加したあとでもあり、増加幅としてはやや小幅化している。

特殊分類別にみると、一般資本財(+2.5%)の一部(トラクター、動力脱穀機)で需要減退に伴う在庫増加がみられるほか、資本財輸送機械でも更新需要伸び悩みの中・小型および軽四輪トラックの増加が目だっている。生産財の在庫(+1.6%)は本年初ごろまでの低水準から漸次増加傾向をたどっているが、6月の増加も普通鋼鋼材、弱電部品、化学肥料、板紙等、総じて需給の緩和を映じたものが少なくない。一方、耐久消費財は需要好

調の軽乗用車、二輪自動車、カラーテレビ等を中心に微減(-0.3%)となったが、エアコンディショナーや各社の増産が著しい小型乗用車などはかなりの増加を続けている。

6月の製品在庫率指数は出荷の大幅増加から92.9と前月(96.2)を大幅に下回った(出荷から船舶を除いた指数93.4、前月95.2)が、3か月移動平均値では3月90.9、4月93.2、5月94.5と漸増傾向がうかがわれる。当月の動きを財別にみると、耐久消費財の大幅低下が目だつ反面、一般資本財および生産財は微落にとどまり、本年3月ごろのボトム時よりやや高めである。

(原材料在庫——6月は微減)

6月の原材料在庫指数(季節調整済み)は前月比-0.2%の微減を示した。業種別にみると、繊維(綿糸、毛糸、生糸、綿織物、合繊織物)、紙・パルプ、皮革、ゴム、化学、石油(原油)などが減少したが、このうち繊維の著減(-3.7%)は、引締めによる資金繰り難や天候不順による末端需要の伸び悩み懸念などに伴う仕入れ手控え傾向を反映したものともみられる。一方、鉄鋼(鉄くず、銑鉄)、非鉄(亜鉛鉱、鉛鉱)、機械、船舶などでは在庫が増加した。

鉄工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	44年				45年		
	6月	9月	12月	3月	4月	5月	6月
鉄指数	168.3	173.2	186.4	185.5	190.7	194.3	—
前期(月)末比	5.6	2.9	7.6	-0.5	2.8	1.9	1.1
前年同期(月)末比	23.5	21.2	20.3	16.3	16.9	18.1	—
製品在庫率	93.2	91.8	95.0	89.0	93.8	96.2	92.9
投資財	3.4	0.4	11.0	3.3	3.9	3.6	3.5
資本財	-1.3	-2.7	14.8	1.7	4.0	5.9	4.5
同(輸送機械を除く)	2.0	-4.9	14.1	4.0	4.6	5.1	2.5
輸送機械	-16.2	9.5	18.3	-9.2	2.3	7.5	—
建設資材	9.3	4.8	6.7	5.3	3.0	1.0	2.2
消費財	8.4	6.7	7.5	-5.7	3.5	1.0	0.6
耐久消費財	18.8	9.8	5.7	-2.2	4.0	4.2	-0.3
非耐久消費財	2.8	1.1	2.4	-2.9	3.2	-0.4	3.9
生産財	4.3	-0.3	7.4	1.8	1.7	2.2	1.6

(注) 1. 通産省調べ、45年6月は速報。
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	44年	45年		45年		
	12月	3月	6月	4月	5月	6月
在庫指数	149.9	155.1	159.9	157.8	160.1	159.9
前期(月)末比	2.5	3.5	3.1	1.7	1.5	-0.2
国産分	2.4	4.4	4.1	1.3	2.7	0.1
素原材料	0.6	0.9	5.0	2.6	4.7	-2.4
製品原材料	2.9	4.7	3.9	0.7	1.9	1.1
輸入分	3.9	1.1	-1.3	0.7	-1.5	-1.1
素原材料	2.9	1.9	-2.0	0.8	-1.2	-1.6
在庫率指数	76.6	77.7	78.6	78.4	79.7	78.6
国産分	72.6	74.3	75.9	74.6	76.9	75.9
素原材料	79.1	80.2	84.3	82.3	87.0	84.3
製品原材料	73.2	75.0	76.3	76.3	76.5	76.3
輸入分	91.6	90.5	88.3	91.3	88.0	88.3
素原材料	91.5	91.0	88.2	91.8	88.2	88.2

(注) 通産省調べ、45年6月は速報。

(販売業者在庫——引き続き増加)

5月の販売業者在庫(季節調整済み)は前月比+4.8%と4月(+2.3%)に続き大幅に増加した。内容的には、前月と同じく、自動車および鋼材が増加の主体である。自動車については、乗用車が増加の中心である点からみて、モデル・チェンジ後の生産本格化に伴う一時的な性格が強いが、鋼材については特約店および一部ユーザーなどの在庫調整を映じた動きとみられる。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	44年		45年	45年		
	9月	12月	3月	3月	4月	5月
総合指数	145.9	157.8	160.8	160.8	164.5	172.4
前期(月)末比	0.2	8.2	1.9	1.5	2.3	4.8
素原材料	15.5	11.3	-4.2	-0.7	-6.1	-2.5
製品	-1.5	7.7	2.7	-1.4	3.1	5.2

(注) 通産省調べ、45年5月は速報。

(設備投資——機械受注は減少)

設備投資と関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み)は4月に前月比-2.2%、5月+0.4%と伸び悩んだあと、6月(速報)は+5.8%と大幅に増加した。4～6月通計では前期比+1.6%と微増にとどまったが、これは1～3月著増(+10.8%)の反動によるところが大きく、ならしてみれば設備投資の基調に大きな変化はみられない。主要機種についてみると、土木・建設機械(掘さく機械、トラクター)、農業機械等がこのところ伸び悩んでおり、また前月著増の反動から印刷機械、圧縮機・送風機等も減少したが、大型変圧器、大型電動機、運搬機械(クレーン、コンベア、エレベーター)、圧延機械、鉄鋼用ロール等、大型受注機種はいずれもかなりの増加を示している。

一方、先行指標である機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み)は、2月に前月比+36.4%と著増のあと、3月-1.8%、4月-1.4%、5月-2.5%と小幅の減少を続けたが、6月には-23.2%と大幅な減少を示し、前年同月比でも+0.7%と前年をわずかに上回る水準にまで低下した。この結

果、4～6月平均では前期比-2.9%と、四半期伸び率としては43年1～3月(同-8.3%)以来の減少を示したが、これは電力からの受注が2月の著増以来減少を続けていることによるところが大きい(ちなみに、船舶および電力を除く民需では、1～3月+0.7%、4～6月+9.9%)。

受注先業種別に6月の動きをみると、紙・パルプ、食品を除き、鉄鋼、自動車、窯業、化学、石油などで軒並み減少しており、とくに電力の著減(-66.5%)が目だっている。

なお、同時に調査された7～9月期の受注見通しによれば、電力(とくに原子力発電設備)、産業機械などを中心に前期比+10.7%と再びかなりの増加が見込まれている。もっとも、最近、見通しの達成率が低下(4～6月91.1%)していることも考慮する必要がある。

この間、6月の建設工事受注額(民間産業、季節調整済み)は、前月比-2.3%と5月(-3.4%)に続き減少したが、これは4月著増(+14.5%)の反動によるところが大きいとみられ、3ヵ月移動平均値の前月比でも、3月+2.0%、4月+1.8%、5月+2.5%と引き続き増勢を維持している。なお、未消化工事高の前年同月比は、4月+26.4%のあと5月は+36.1%と一段高を示している。

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	44年	45年			45年		
	10～12月	1～3月	4～6月	4月	5月	6月	
民 需	2,224 (+5.2)	2,739 (+23.2)	2,522 (-7.9)	2,767 (+2.7)	2,704 (-2.3)	2,096 (-22.5)	
同 (船舶を除く)	2,048 (+3.1)	2,385 (+16.4)	2,314 (-2.9)	2,550 (-1.4)	2,486 (-2.5)	1,908 (-23.2)	
製 造 業	1,358 (+8.5)	1,410 (+3.9)	1,487 (+5.4)	1,595 (+2.2)	1,567 (-1.7)	1,300 (-17.0)	
非製造業	859 (-0.6)	1,360 (+58.3)	1,036 (-23.8)	1,167 (+2.1)	1,140 (-2.3)	822 (-29.6)	
同 (船舶を除く)	706 (-4.5)	986 (+39.7)	832 (-15.6)	944 (-6.2)	929 (-1.6)	622 (-33.0)	

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

◇商品市況は総じてみれば落着き模様に移

7月にはいつてからの商品市況をみると、銅、鉛を中心とする非鉄金属や冷延薄板が続落を示したほか、合繊、紙、合成樹脂等が引き続き弱含みに推移し、総じてみれば落着き商状を持続した。しかし他方で、条鋼類や繊維の一部(生糸、スフ糸、人絹糸)が続伸し、今まで下げ続けた厚板が小幅ながら反発、木材、セメント等も強含みに転ずるなど、一部のものに下げ止まりないし小反発の場面もみられた。

非鉄金属や合繊等が落着き商状を続けているのは、金詰まりによる商社、ユーザーなどの手当て慎重化が大きく響いているが、最近では、輸出成約の伸び悩み(鉄鋼、合繊等)、内需の鈍化(鉄鋼、非鉄、塩ビ、板紙等)、大型設備の稼働本格化による供給力増大(銅、塩ビ、上質紙、板紙等)といった事情も働いており、メーカー、商社などが生産調整等の市況対策を強める動きも目だっている。

こうした市況対策に加え、梅雨明け後の需要増期待や夏期減産といった季節的要因、さらには在庫調整の進捗もあって、このところ、一部商品に下げ止まりないし反発を示すものがみられる。条鋼類や厚板の値上がりは、こうした要因によってユーザー(中小土建)、特約店筋が補充買いを進めていることによるもので、先行きもおおむらくは強含みが予想される。また久しく続落してきた非鉄も、海外相場の下げ止まり傾向からごく最近では下げ止まり商状をみせるようになっている。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼……条鋼類が続騰し、鋼板類の中でも厚板・熱延薄板が月央以降小反発ないし下げ止まり気配を示したが、冷延薄板は依然弱含み商状を持続した。この間普通鋼鋼材のメーカー・問屋在庫率(季節調整後)は3月末78.3%、5月末91.9%、6月末(速報)93.1%と上昇しており、需給の地合いは引き続き悪化しているよううかがわれる。こうした情勢下、メーカーの生産態度はひと

に比べれば慎重化しており、高炉大手メーカーでは7月からホットコイルの1割減産を行なっている。

繊維……化学繊維、天然繊維が総じて高値に移した。これは、定期市場における仕手筋の買いあおりによる面が大きい。このほか多くの品種で生産の伸び悩み傾向がみられる一方、需要面ではこれまで手持ちを極力圧縮してきた機屋、ニッターや商社筋がここへきて小口ながら補充買いの動きをみせていることも響いている。一方、合繊は、輸出環境の悪化に加え、各社の設備増強から先行き供給圧力の増大が予想されるため、ユーザーの引取り態度も消極的で、相場はじり安基調を続けている。

非鉄金属……銅が続落、その他も総じて弱含みに推移した。銅の下落は、海外相場の続落から、電線、伸銅等ユーザー筋がメーカー建値の引下げを見込んで買い控え態度を強めたことが主因である。このため山元在庫が増加していることから、再び過剰玉整理のための輸出(20~25千トン)が行なわれることとなった。なお、後半に至り、海外相場が下げ止まりとなったため、市場には底値感が台頭しつつある模様である。

石油製品……灯油、ガソリンは不需要期とあって弱含みに推移したが、C重油は引き続き品不足、コスト上昇(フレート上昇、マイナス原油の値上げ)などから若干値上がりした。また軽油も、長雨のため需要は伸び悩みぎみながら、メーカーの売り腰が強く強保合いで推移した。

セメント……長雨による6月の出荷鈍化から荷繰り面には依然余裕があるが、7月にはいつて官公需新規工事が本格化してきたため相場は強保合い。

木材……長梅雨の影響のほか米材の荷圧迫もあって市況は一部を除き弱含みを続けてきたが、7月後半にはいつてやや荷動きが活発となってきている。もっとも資金面の制約もあって業界の仕方は慎重で、営林署の公売においても代金延納の動きが目だっている。

化学品……需給地合いは総じてタイトながら、その度合いはひとところほどではなくなってきており、一部品目(塩酸、塩ビ、ポリスチレン等)では新規大型設備のあいつぐ稼働、弱電、塗料、自動車等からの引合い鈍化などから市況が弱含みに転ずる気配もうかがわれる。

紙……上質紙は流通在庫が依然高水準であるうえ、夏場不需要期という事情もあって、メーカーの打ち出した値上げもほとんど浸透していない模様。板紙では、前月値下がりした段ボール原紙が、大幅増産の目だつJライナーを中心に弱含み商状を持続した。

砂糖……月前半、相場はじり安を示したが、後半月にはいり天候の回復から清涼飲料向け出荷が増大したほか、海外原糖相場が欧州ビートの収穫減や英国港湾ストの影響などから反騰に転じたこともあって、反騰をみせた。

(卸売物価——6月は23ヵ月ぶりに下落)

6月の卸売物価は、前月保合いのあと、総平均

で前月比-0.4%と43年7月以来23ヵ月ぶりに下落した(前年同月比では+3.9%)。類別にみると、年初来下げ続けてきた食料品が半年ぶりに反騰したほか、金属製品、窯業製品、機械器具等も値上がりしたが、反面、非鉄金属は海外安を映じて大幅統落となり、鉄鋼も普通鋼鋼材、くず鉄、特殊鋼等を中心に下落、さらに繊維品(生糸、そ毛糸中心)、木材・同製品も約1年ぶりに反落した。この間、連騰を続けてきた紙・パルプ・同製品は15ヵ月ぶりに保合いとなった。

産業別分類では、非工業製品が国産原木、鉄くず、銅くず等の値下がりから前月比-0.3%と統落、また工業製品も鉄鋼、非鉄金属等の大企業性製品中心に、23ヵ月ぶりに-0.5%の反落を示した。

7月にはいってからは、非鉄金属が引き続きかなりの値下がりを示し、食料品も軟化しているものの、反面、鉄鋼が条鋼類の値上がりから反騰し、繊維製品でも天然繊維や織物などが堅調のため、総平均の前旬比は上旬、中旬とも保合いとな

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	前年度比上昇率		最 近 の 推 移(前月(旬)比上昇率)									
		43年度 平均	44年度 平均	45 年			45 年 6 月			45 年 7 月		上旬	中旬
				4 月	5 月	6 月	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬		
総 平 均	100.0	+ 0.6	+ 3.2	+ 0.4	保 合	- 0.4	- 0.3	- 0.1	保 合	保 合	保 合		
食 料 品	15.7	+ 5.2	+ 4.2	- 0.2	- 0.2	+ 0.5	+ 0.3	保 合	+ 0.4	- 0.1	- 0.6		
繊 維 品	10.7	- 0.9	+ 0.4	+ 1.1	+ 0.2	- 0.1	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.3	+ 0.6	保 合		
鉄 鋼	9.7	- 4.4	+ 11.3	- 0.9	- 1.2	- 2.5	- 1.4	- 0.5	- 0.2	+ 0.3	+ 0.5		
非 鉄 金 属	4.4	- 0.5	+ 18.2	+ 1.8	- 1.8	- 5.8	- 2.5	- 1.2	- 2.4	- 1.1	- 1.1		
金 属 製 品	3.8	+ 0.7	+ 3.0	+ 1.0	+ 0.4	+ 0.6	保 合	+ 0.1	+ 0.2	保 合	- 0.1		
機 械 器 具	22.1	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.3	+ 0.3	+ 0.2	+ 0.1	保 合	保 合	+ 0.1	保 合		
石油・石炭・同製品	5.6	- 1.3	- 1.5	+ 0.3	+ 0.5	+ 0.2	保 合	- 0.1	保 合	保 合	+ 0.2		
木材・同製品	6.2	+ 5.2	+ 3.0	+ 1.0	+ 0.4	- 0.1	+ 0.1	- 0.3	- 0.1	- 0.2	+ 0.4		
窯 業 製 品	3.0	+ 1.8	+ 2.3	+ 0.6	+ 0.4	+ 0.4	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.3	保 合		
化 学 品	7.6	- 2.2	- 0.4	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.1	保 合	保 合	+ 0.1	保 合	保 合		
紙・パルプ・同製品	3.4	- 0.9	+ 3.7	+ 0.5	+ 0.4	保 合	保 合	保 合	- 0.1	+ 0.2	- 0.2		
雑 品 目	7.9	+ 0.9	+ 2.7	+ 0.2	+ 0.5	+ 0.1	+ 0.1	保 合	+ 0.1	+ 0.1	保 合		
工 業 製 品	82.0	+ 0.3	+ 3.0	+ 0.6	+ 0.2	- 0.5	- 0.3	- 0.1	- 0.1	+ 0.2	保 合		
うち													
大 企 業 性	59.6	- 0.4	+ 2.3	+ 0.4	+ 0.2	- 0.7							
中 小 企 業 性	21.0	+ 2.2	+ 4.4	+ 1.1	+ 0.4	- 0.1							
非 工 業 製 品	18.0	+ 2.1	+ 4.1	- 0.8	- 0.8	- 0.3	+ 0.2	- 0.3	+ 0.1	- 0.3	- 0.3		

(注) 本行調べ。

った。産業別分類では、非工業製品が引き続き弱含み(上旬、中旬とも -0.3%)の反面、工業製品は微騰を示している(上旬 +0.2%、中旬保合)。

(6月の工業製品生産者物価——反落)

6月の工業製品生産者物価は、総平均で前月比 -0.4%と、卸売物価と同様、23ヵ月ぶりに反落を示した。これは、非鉄金属、普通鋼鋼材の大幅続落が主因であるが、このほか合成繊維もじり安を続け、さらに食料品、天然および化学繊維、織物、雑品目等が下落した。

工業製品生産者物価指数の推移

(単位・%)

	ウエ イト	前年度比 上昇率		最近の推移 (前月比上昇率)		
		43年度 平均	44年度 平均	45 年		
				4 月	5 月	6 月
総 平 均	100.0	+0.3	+2.4	+0.6	+0.1	-0.4
食 料 品	12.6	+5.7	+2.4	+0.7	+1.0	-0.4
天然および化学繊維	3.0	-4.7	-1.1	+2.3	-0.1	-0.3
合 成 繊 維	1.4	-6.4	-3.1	-0.9	-0.6	-0.5
織 物	2.8	-0.5	+1.3	+0.6	-1.0	-0.4
繊維二次製品	3.2	+5.3	+3.4	+0.3	保合	+0.2
普通鋼鋼材	7.2	-5.3	+10.2	-0.5	-1.3	-3.1
特殊鋼鋼材その他	2.5	-2.1	+3.0	+1.0	+0.2	+0.6
非鉄金属	4.4	-0.5	+16.5	+1.9	-1.6	-5.2
金属製品	4.6	+0.6	+2.2	+1.2	+0.3	保合
一般機械	10.4	+2.1	+1.6	+0.6	+0.4	+0.2
輸送機械	8.3	-1.6	-1.2	保合	保合	+0.1
電気機械器具	9.1	-1.0	+0.1	+0.2	+0.3	+0.1
石油・石炭製品	3.7	-1.3	-1.6	+0.3	保合	+0.1
木材・同製品	5.0	+5.1	+3.5	+2.3	+0.3	+0.3
窯業製品	3.4	+0.9	+1.4	+0.2	+0.4	+1.2
化学製品	7.8	-2.6	-1.0	保合	+0.1	+0.1
紙・パルプ・同製品	4.5	-0.1	+2.9	+0.8	+0.3	+0.2
雑品目	6.1	+0.2	+2.7	+0.3	+0.8	-0.1

(注) 本行調べ。

(7月の消費者物価——反騰)

消費者物価(東京)は、5月(前月比 -1.1%)、6月(同 -0.5%)と続落のあと、7月(速報)は前月比 +0.3%と反騰した(季節商品を除く総合では前月比 +0.2%)。これは、食料費が野菜(前月比 -15.4%)、乳卵(同 -0.3%)等の続落にもかかわらず、くだもの(同 +20.1%)、生鮮魚介(同 +3.2%)、

肉類(同 +0.1%)等の値上がりから前月比 +0.5%の上昇を示したことが大きく響いているが、そのほか前月下落をみた被服費が反騰(同 +0.2%)、住居費も修繕費高を中心に +0.4%の続騰となった。なお、前年同月比では +4.3%となっている。

(6月の輸出入物価——輸出物価の騰勢一服)

6月の輸出物価は、前月大幅上昇のあと、総平均で前月比保合いとなった(船舶を除く総平均では前月比 -0.1%、なお輸出物価が保合いとなったのは43年12月以来19ヵ月ぶり)。財別には、食料品、機械器具、化学製品、雑品目等が値上がりした反面、金属・同製品、繊維品、非金属鉱物製品等が値下がりした。一方輸入物価は、前月比 -0.5%と5月(同 -0.1%)に続き下落した。食料品、鉱物性燃料、雑品目等は続騰したが、反面、金属が海外安を映じて大幅に続落したほか、繊維品、化学製品も反落を示した。

この結果、交易条件指数は前月比 0.5ポイント上昇し、前月(+0.6ポイント)に続いて大幅な改善となった。

消費者・輸出入物価の推移

(単位・%)

			ウ エ イ ト	前年度比 上 昇 率		最近の推移 (前月比上昇率)			最 近 の 前 月 同 月 比
				43年 度 平 均	44年 度 平 均	45 年			
						5 月	6 月	7 月	
消 費 者 物 価	東 京	総 合	100.0	+5.2	+6.6	-1.1	-0.5	+0.3	+ 4.3
		(季節商品を除く)	91.4	+5.6	+5.6	+0.1	+0.1	+0.2	+ 5.3
		食 料	40.9	+6.5	+8.1	-2.8	-1.1	+0.5	+ 2.0
		住 居	10.7	+2.4	+3.0	+0.3	+0.2	+0.4	+ 5.6
		光 熱	4.5	+0.3	+0.3	-0.7	保合	保合	同水準
		被 服	13.0	+5.5	+7.2	-0.7	-0.2	+0.2	+10.6
		雑 費	31.0	+5.3	+6.3	+0.5	保合	+0.1	+ 5.2
全 国 人 口 5 万 以 上 の 都 府 市	総 合	100.0	+4.9	+6.4	-0.6	-0.5		+ 6.8	
	(季節商品を除く)	91.4	+5.3	+5.2	+0.3	+0.2		+ 5.7	
	総 合	100.0	+4.9	+6.6	-0.7	-0.5		+ 7.0	
	(季節商品を除く)	91.3	+5.3	+5.3	+0.3	+0.2		+ 5.8	
輸 入 物 価	輸 出		+0.6	+4.0	+0.6	保合		+ 5.7	
	輸 入		-0.3	+3.8	-0.1	-0.5		+ 3.0	
	輸 入 易 件		+0.9	+0.2	+0.6	+0.5		+ 2.6	

(注) 1. 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。
2. 45年7月は速報。

◇国際収支は小幅の黒字

6月の国際収支は、貿易収支が335百万ドルの大幅黒字(前月同200百万ドル)となったものの、長期資本収支が延払信用供与の増加を主因にかなりの流出超となったことなどから、総合では48百万ドルの黒字(前月赤字78百万ドル)にとどまった。

貿易収支を季節調整後でみると、前月減少を示した輸入がかなりの増加となったものの、輸出も船舶の引渡し集中などから相当増加したため、月中322百万ドルとほぼ前月(黒字324百万ドル)並みの黒字となった。

長期資本収支の大幅流出超(171百万ドル)は、本邦資本が船舶の輸出集中に伴う延払信用供与の増大から166百万ドルの大幅赤字(前月同139百万ドル)となったため、この間外国資本は、対日証券投資が前月に続き流出超となったものの、その額は、比較的小幅(16百万ドルの流出超、前月同79百万ドル)にとどまったため、ほぼ収支とんとん(流出超5百万ドル、前月同50百万ドル)となった。

金融勘定では、為銀の対外ポジションは本行の輸入資金貸付実施から外銀借入れが小幅の増加にとどまったうえ、買持輸出手形の増加などもあって76百万ドルの改善をみた。一方、外貨準備は上記輸入資金貸付実施に伴う外為会計の対為銀スワップ取引、イタリアの対IMF債権の肩代わりなどから月中132百万ドルの大幅減少(月末残高3,769百万ドル)となった。

6月の輸出は5月にやや伸び悩みのあと前年同月比+23.0%、季節調整後の前月比でも+6.0%と高い伸びを

示した。もっともこれには、船舶の引渡し集中も響いており、船舶を除く輸出通関額を3か月移動平均してみると、季節調整後の前月比で3月+1.2%、4月0%、5月+0.5%とこれまでの基調にとくに変化はみられない。商品別(通関ベース)にみると、船舶が前年同月比+45%の大幅増加を示したほか、鉄鋼(前年同月比+41%)、自動車(同+32%)等も高水準を続けたが、一方化学肥料(同-24%)、テレビ(同+5%)は低調であった。仕向け先別にみると、西欧向け(同+90%)が鉄鋼、船舶を中心に著伸、中共向け(同+133%)も鉄鋼、機械等の増加から引き続き強い増勢をみせた。一方、米国向けも綿・毛織物、非金属鉱物製品、テレビ等の減少ないし伸び悩みにもかかわらず、合繊織物、合成樹脂、自動車の好伸から前年同月比+18%(前月同+15%)とまずまずの伸びを示した。また東南アジア向けも鉄鋼、船舶を中心に同+13%(前月同+8%)の伸びとなった。

7月中の輸出信用状接受高は、前年同月比で

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支			通 関		輸 出	輸 出	輸 入
	輸 出	輸 入	貿 易 じ り	輸 出	輸 入	信用状	認 証	承 認
44年								
4～6月	1,277 (+ 6.2)	942 (+ 3.7)	335	1,306 (+ 5.9)	1,176 (+ 2.0)	1,044 (+ 2.7)	1,355 (+ 7.6)	1,232 (+ 14.4)
7～9月	1,336 (+ 4.6)	1,056 (+ 12.1)	280	1,359 (+ 4.0)	1,337 (+ 13.6)	1,131 (+ 8.4)	1,414 (+ 4.4)	1,247 (+ 1.3)
10～12月	1,394 (+ 4.3)	1,090 (+ 3.2)	304	1,416 (+ 4.2)	1,345 (+ 0.6)	1,216 (+ 7.5)	1,513 (+ 7.0)	1,268 (+ 1.6)
45年								
1～3月	1,499 (+ 7.6)	1,166 (+ 6.9)	333	1,538 (+ 8.6)	1,479 (+ 10.0)	1,235 (+ 1.6)	1,584 (+ 4.7)	1,401 (+ 10.5)
4～6月	1,546 (+ 3.2)	1,228 (+ 5.3)	318	1,578 (+ 2.6)	1,534 (+ 3.7)	1,260 (+ 2.1)	1,627 (+ 2.7)	1,465 (+ 4.5)
45年 2月	1,492 (- 0.1)	1,172 (+ 3.1)	320	1,518 (- 0.9)	1,459 (0)	1,269 (+ 1.0)	1,563 (+ 0.5)	1,417 (+ 4.5)
3月	1,511 (+ 1.3)	1,189 (+ 1.5)	322	1,565 (+ 3.1)	1,521 (+ 4.3)	1,178 (- 7.2)	1,633 (+ 4.4)	1,430 (+ 0.9)
4月	1,528 (+ 1.1)	1,218 (+ 2.4)	310	1,546 (- 1.3)	1,496 (- 1.7)	1,257 (+ 6.7)	1,593 (- 2.4)	1,316 (- 8.0)
5月	1,510 (- 1.2)	1,186 (- 2.6)	324	1,542 (- 0.3)	1,458 (- 2.5)	1,256 (- 0.1)	1,618 (+ 1.5)	1,554 (+ 18.1)
6月	1,601 (+ 6.0)	1,279 (+ 7.8)	322	1,647 (+ 6.8)	1,648 (+ 13.0)	1,268 (+ 1.0)	1,669 (+ 3.2)	1,523 (- 2.0)

(注) 1. 四半期計数は月平均。
2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。
3. 季節調整はセンサス局法による。

+17.4%(前月同+20.5%)と増勢がやや鈍化し、季節調整後でも前月比-0.1%と高水準ながらもほぼ横ばいとなった。品目別に前年同月比伸び率をみると、鉄鋼が高い伸びを示したほか、自動車、一般機械等も好調を続けた反面、繊維製品、雑貨類は米国向けを中心に引き続き不振に推移し、化学製品は中共向け化学肥料の低調などから前年実績を下回った。地域別には、欧州向けは機械、鉄鋼を中心に高い伸びを維持したが、米国向けは鉄鋼、自動車が増加した反面、繊維製品、雑貨、電機の不振から伸び悩みぎみとなっており、アジア向けも鉄鋼、産業用機械が伸長をみたものの、化学肥料、電機等の不振から低調であった。

6月の輸入は前年同月比+30.8%、季節調整後の前月比でも+7.8%とかなりの増加を示した。前年比の高水準には鉄鋼原材料等の値上がりもかなり影響しているが、当月の増加には船繰りなど

の関係から非鉄金属鉱等の入着が当月にずれ込んだことも響いており、ここにきて輸入の増勢がとくに強まったとは必ずしもみられない。品目別(通関ベース)には、航空機の入着集中から機械機器(前年同月比+85%)が著増したほか、鉄くず(同+197%)、非鉄金属鉱(同+76%)、石炭(同+50%)等の増加が目だった。

6月の輸入承認額は、前年同月比+25.8%、季

通 関 輸 出 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	44年	45 年			45 年		
	10~ 12月	1~3月	4~6月		4 月	5 月	6 月
食 料 品	129 (+ 1)	125 (+ 22)	160 (- 7)		52 (- 11)	54 (- 7)	53 (0)
魚 介 類	82 (- 3)	59 (+ 12)	65 (+ 13)		20 (+ 5)	21 (+ 13)	24 (+ 22)
繊 維 製 品	662 (+ 8)	497 (+ 6)	584 (+ 4)		187 (+ 4)	198 (+ 2)	199 (+ 8)
綿 織 物	60 (- 18)	40 (- 21)	46 (- 19)		15 (- 20)	16 (- 18)	15 (- 17)
合 繊 織 物	166 (+ 27)	123 (+ 27)	147 (+ 23)		48 (+ 22)	50 (+ 20)	49 (+ 26)
化 学 製 品	301 (+ 30)	287 (+ 44)	296 (+ 32)		104 (+ 43)	100 (+ 34)	91 (+ 20)
非 金 属 鉱物製品	105 (+ 11)	86 (+ 1)	95 (- 4)		32 (- 1)	32 (- 5)	30 (- 7)
金 属 製 品	870 (+ 31)	820 (+ 36)	940 (+ 36)		308 (+ 40)	314 (+ 31)	319 (+ 36)
鉄 鋼	651 (+ 36)	633 (+ 41)	689 (+ 36)		220 (+ 38)	229 (+ 29)	240 (+ 41)
機 械 機 器 (船 舶 を除く)	2,059 (+ 23)	1,933 (+ 27)	2,113 (+ 25)		703 (+ 24)	639 (+ 23)	772 (+ 28)
テ レ ビ	100 (+ 16)	71 (+ 16)	88 (+ 7)		25 (- 1)	33 (+ 16)	30 (+ 5)
ラ ジ オ	174 (+ 33)	136 (+ 29)	169 (+ 24)		56 (+ 28)	55 (+ 22)	58 (+ 23)
自 動 車	267 (+ 25)	266 (+ 21)	306 (+ 31)		100 (+ 19)	104 (+ 42)	102 (+ 32)
船 舶	345 (+ 27)	397 (+ 35)	318 (+ 32)		113 (+ 30)	49 (+ 8)	156 (+ 45)
光 学 機 器	124 (+ 13)	105 (+ 19)	123 (+ 11)		40 (+ 13)	41 (+ 10)	42 (+ 11)
そ の 他	445 (+ 10)	383 (+ 15)	481 (+ 11)		148 (+ 9)	158 (+ 6)	175 (+ 17)
合 計	4,571 (+ 20)	4,131 (+ 25)	4,668 (+ 21)		1,533 (+ 21)	1,496 (+ 18)	1,640 (+ 23)
(船舶を 除く)	4,225 (+ 20)	3,734 (+ 24)	4,350 (+ 20)		1,420 (+ 21)	1,447 (+ 18)	1,484 (+ 21)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	44年	45 年			45 年			44年 6 月
	10~ 12月	1~3月	4~6月		4月	5 月	6 月	
経 常 収 支	766	67	383		164	46	173	211
貿 易 収 支	1,159	591	851		316	200	335	334
輸 出	4,494	4,050	4,595		1,513	1,473	1,609	1,308
輸 入	3,335	3,459	3,744		1,197	1,273	1,274	974
貿易外収支	△ 356	△ 465	△ 417		△ 130	△ 148	△ 139	△ 100
移 転 収 支	△ 37	△ 59	△ 51		△ 22	△ 6	△ 23	△ 23
長期資本収支	△ 178	△ 438	△ 481		△ 121	△ 189	△ 171	△ 49
本 邦 資 本	△ 579	△ 670	△ 455		△ 150	△ 139	△ 166	△ 113
外 国 資 本	401	232	26		29	50	5	162
基礎的収支	588 (339)	△ 371 (37)	△ 98 (7)		43 (37)	△ 143 (△ 19)	2 (△ 11)	260 (234)
短期資本収支	141	185	156		92	37	27	△ 12
誤 差 脱 漏	△ 19	△ 170	△ 35		△ 82	28	19	34
総 合 収 支	710	△ 16	23		53	△ 78	48	282
金 融 勘 定 外 貨 準 備	710	△ 16	23		53	△ 78	48	282
増 減	270	372	△ 99		55	△ 22	△ 132	△ 12
そ の 他	440	△ 388	122		△ 2	△ 56	180	294
外 貨 準 備 高	3,496	3,868	3,769		3,923	3,901	3,769	3,089
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	694	395	419		397	343	419	△ 99

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

通 関 輸 入 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	44年	45年		45 年		
	10~ 12月	1~3月	4~6月	4 月	5 月	6 月
食 料 品	584 (+ 20)	579 (+ 15)	605 (+ 17)	191 (+ 16)	211 (+ 14)	203 (+ 23)
小 麦	75 (+ 3)	82 (+ 13)	66 (- 12)	16 (- 37)	30 (+ 10)	20 (- 10)
とうも ろこし	72 (+ 15)	74 (+ 26)	78 (+ 24)	26 (+ 36)	26 (+ 9)	26 (+ 30)
砂 糖	56 (+ 75)	58 (+ 11)	63 (+ 52)	21 (+ 33)	21 (+ 57)	21 (+ 71)
原 燃 料	2,316 (+ 18)	2,421 (+ 26)	2,636 (+ 30)	845 (+ 34)	890 (+ 26)	900 (+ 29)
羊 毛	87 (- 6)	97 (- 3)	93 (- 5)	25 (- 19)	34 (- 8)	34 (+ 15)
綿 花	104 (- 11)	111 (+ 2)	131 (+ 14)	42 (+ 18)	41 (+ 17)	47 (+ 8)
鉄 鉱 石	255 (+ 16)	265 (+ 22)	306 (+ 25)	97 (+ 30)	101 (+ 27)	107 (+ 20)
鉄鋼くず	70 (+ 30)	66 (+ 108)	102 (+ 143)	26 (+ 122)	38 (+ 118)	38 (+ 197)
非鉄金属鉱	218 (+ 48)	255 (+ 72)	274 (+ 77)	98 (+ 124)	77 (+ 40)	99 (+ 76)
大 豆	77 (+ 10)	87 (+ 33)	87 (+ 26)	23 (+ 9)	34 (+ 37)	30 (+ 30)
木 材	342 (+ 15)	338 (+ 28)	385 (+ 16)	114 (+ 15)	130 (+ 17)	141 (+ 18)
石 炭	184 (+ 36)	188 (+ 26)	249 (+ 58)	83 (+ 76)	83 (+ 51)	83 (+ 50)
原 油	536 (+ 18)	544 (+ 17)	534 (+ 18)	180 (+ 21)	194 (+ 22)	160 (+ 11)
化学製品	209 (+ 9)	239 (+ 29)	255 (+ 32)	82 (+ 35)	85 (+ 32)	88 (+ 29)
機械機器	429 (+ 23)	561 (+ 54)	591 (+ 46)	167 (+ 32)	164 (+ 19)	260 (+ 85)
鉄 鋼	66 (- 13)	81 (+ 24)	74 (+ 44)	22 (+ 40)	28 (+ 17)	25 (+ 98)
非鉄金属	256 (+ 35)	262 (+ 24)	237 (+ 15)	74 (+ 19)	94 (+ 20)	69 (+ 7)
そ の 他	260 (+ 39)	259 (+ 51)	282 (+ 44)	94 (+ 55)	92 (+ 42)	96 (+ 35)
合 計	4,120 (+ 20)	4,403 (+ 29)	4,680 (+ 30)	1,475 (+ 32)	1,565 (+ 24)	1,640 (+ 35)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

節調整後の前月比では-2.0%となった。もっとも、5月は原子力発電設備、航空機の集中から大幅に増加した事情にあるので、同月の実績からこれら特殊要因を除いた季節調整後の前月比を試算すると6月は+0.7%となり、実勢ではおおむね高水準横ばいとみられる。品目別に前年同月比の伸びをみると、銅鉱石、銑鉄、小麦等が増勢を続けた反面、綿花、羊毛等の繊維原料や化学製品は減少を示した。

なお、5月の輸入素原材料消費(製造業、季節調整済み)は、原油を中心に前月比+2.8%と増加を示し、一方在庫は、原油、石炭等が減少したため、同在庫率は88.2と昨年7月(88.2)以来再び既往最低の水準に落ち込んだ。